

73 そうたくじ ひらがね
相沢寺平鉦



表面



裏面

指 定 市有形文化財 昭和54年 3 月31日
所在地 白 田
所有者 相 沢 寺



白田山相沢寺は浄土宗の古刹（古く由緒ある寺）である。この寺の什物で、数個の平鉦が所蔵されている。この鉦の一つが、来迎会用仏面とともに文化財に指定されている。

平鉦は仏教楽器の一つで、金鼓・扁鉦・伏鉦・叩鉦などいろいろによばれ、念仏を唱えるとき、膝元に置き叩いてならすものである。

指定の平鉦裏面に、「奉寄進善導寺 堺北庄古手屋次郎左衛門家次 大永三年三月十六日」の刻銘がある。年紀の大永3年（1523）は戦国時代の初期にあたる。また善導寺は、現在福岡県久留米市善導寺町にあり、浄土宗鎮西派総本山の古名刹である。この寺に泉州堺の商人次郎左衛門家次が上記年月日にこの鉦を奉納したものである。

宝永6年（1709）に作られた相沢寺の絵巻物の詞書に、「大永年中、筑紫善導寺の僧、来たって念仏をすすむ、その鉦今に伝来す」とある。この鉦はいつ相沢寺に移ったのか不明であるが、直径25cmの青銅製品であるから、人が携帯して長い旅をすることもできるわけで、同じ浄土宗念仏寺の縁から僧侶の往来があり、いつの頃かこの鉦が、念仏をすすめるために九州から信州にもたらされたものである。

なお相沢寺は浅間山麓の十念寺と並ぶ、西嶽山麓の念仏道場であった。